国土造りプロジェクト構想３

～安全・快適で豊かな国土造りのために～

【外濠（市ヶ谷～飯田橋）地区再生プロジェクト】

～都心に開放的で快適な水辺空間を創出～





2022年3月

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）
国土・未来プロジェクト研究会

まえがき

狭隘かつ急峻な国土しか持たないこの国を、世界でも有数の高い経済活動を営む国へと創り上げた要因の一つは、国を挙げての国土基盤づくりの事業であった。

戦いで荒廃した国土の復興からはじまったこの 70 年余を見ても、空港、港湾や高速道路、新幹線のような大規模交通施設をはじめ、各種都市施設や防災施設、産業施設など大規模施設から、国民の日常生活を支える各種施設に至るまで、膨大な社会資本がこの間に蓄積された。

その間、国民は国づくり、街づくりについて多くの夢や意見を持ち、その実現にむけて積極的な行動を行ってきた。こうした中でいくつかの構想がつくられ、あるものは実現して現在の貴重なインフラとなって現世代に活用され、あるものは激しい議論の中で消えていった。行政の中では、多くの構想について検討がなされ、それらの実現に向けての努力は続けられ、政治やメディアはそれを支持し、時には反対に動いた。

しかし、今世紀に入る頃から、我が国社会でのこのような活動は目に見えて下火となっていった。経済の停滞と財政のひっ迫、そして国民の飽食意識や行政の守勢的姿勢などが、この国土整備への投資努力をうしろ向きにしてしまった。とくに大規模な国土基盤整備事業については、その構想を示すことに対してさえ、ネガティブな論調が示される向きが見られるほどになった。

近年の自然災害は激甚さを増している。また、経済の停滞はまたたく間に国民の所得水準を欧米のそれに大きく下廻るようにし、アジア周辺国の後じんをも拝するようになった。

長い歴史的蓄積を持つ欧米諸国はすでに充分かとさえ思われた国土のインフラをさらに改善し、より豊かな社会活動と国民生活のため、そして地域の文化振興のために、増強しつつある。

こうした現状から脱皮するために、我が国は必要とされる基盤施設を国民が再び構想し、実現に向けて努力することが必要と考える。

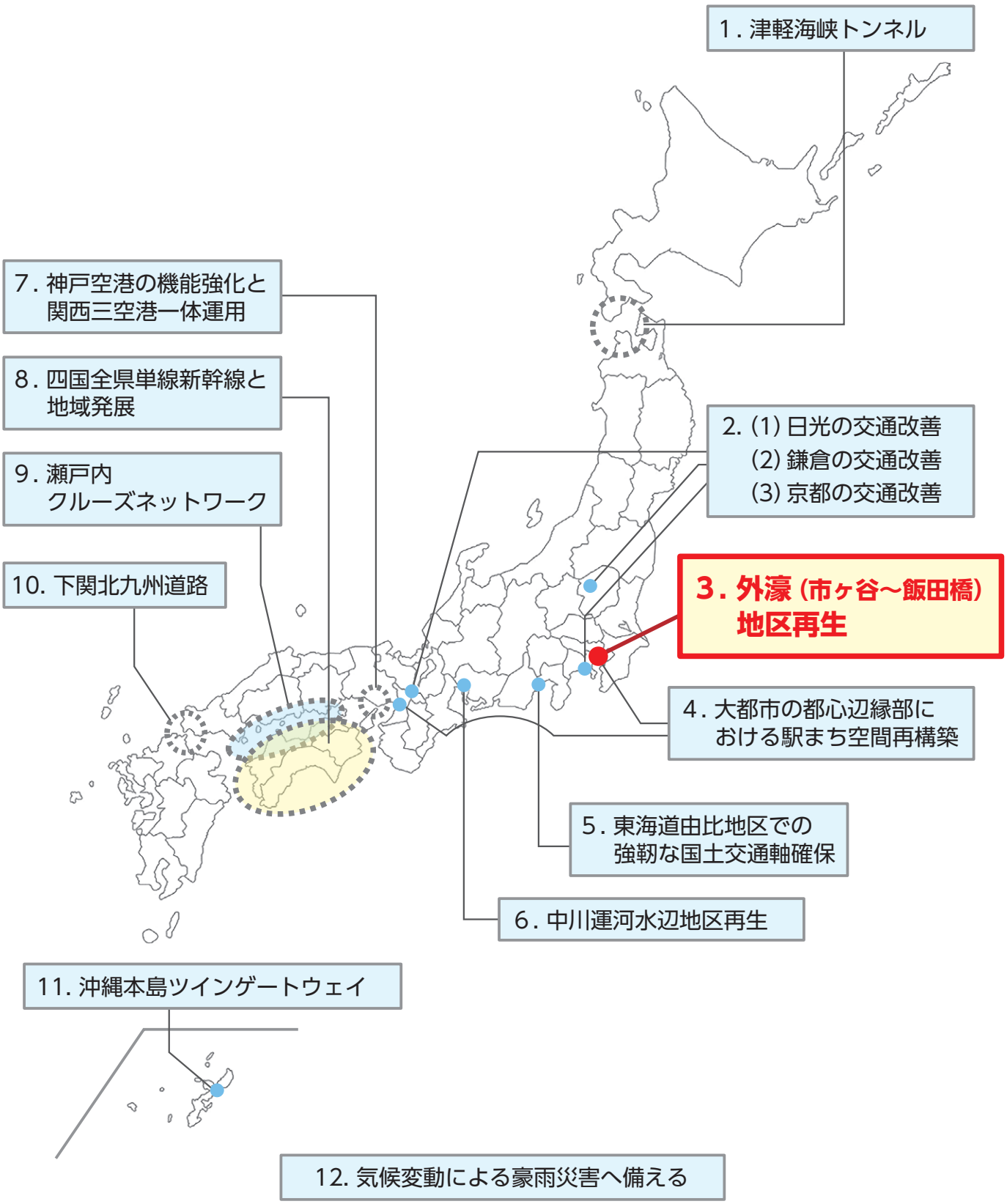
無論、社会が必ずしも必要としない施設に巨費を投ずる愚は避けねばならない。しかし、この国土をより安全かつ快適で豊かなものとし、そこでの活動をより効率的にし活性化するための投資は、続く世代とその先の未来のために広く国民全体で構想してゆくことが必要である。

新型コロナ感染症によって多大の損傷を被った世界の各国は、今後長期間にわたり、その回復とさらにその先の発展へ向けて、激烈な成長競争を進めるに違いない。そのとき、今後の発展へ向けての国土基盤への投資の多寡と適否はその国土の将来に対し支配的な影響を持つに違いない。

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）の構想提案書はそのような考えのもと、今後必要性が高く、かつ実現可能性も高い事業として、どのようなものが考えられるか、また、その実現にはどのような制度的（財源的)、技術的な方法があり得るかについて、JAPIC を舞台に糾合した主として建設関係の中核的な専門家の未来研究会が創り上げたものである。行政や経済界の関係者をはじめとする多くの方々がそれぞれの地域での今後の新しい事業を構想するにあたって、この構想提案書を参考とされることを期待するものである

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）
副会長　中村　英夫

～国土造りプロジェクト構想（重点プロジェクト）～



目 次
Contents

1. 提言の概要 …… 1

2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題 …… 3

3. 参考となる国内外の事例 …… 10

4. プロジェクトの概要 …… 13

5. 事業費および事業効果 …… 23

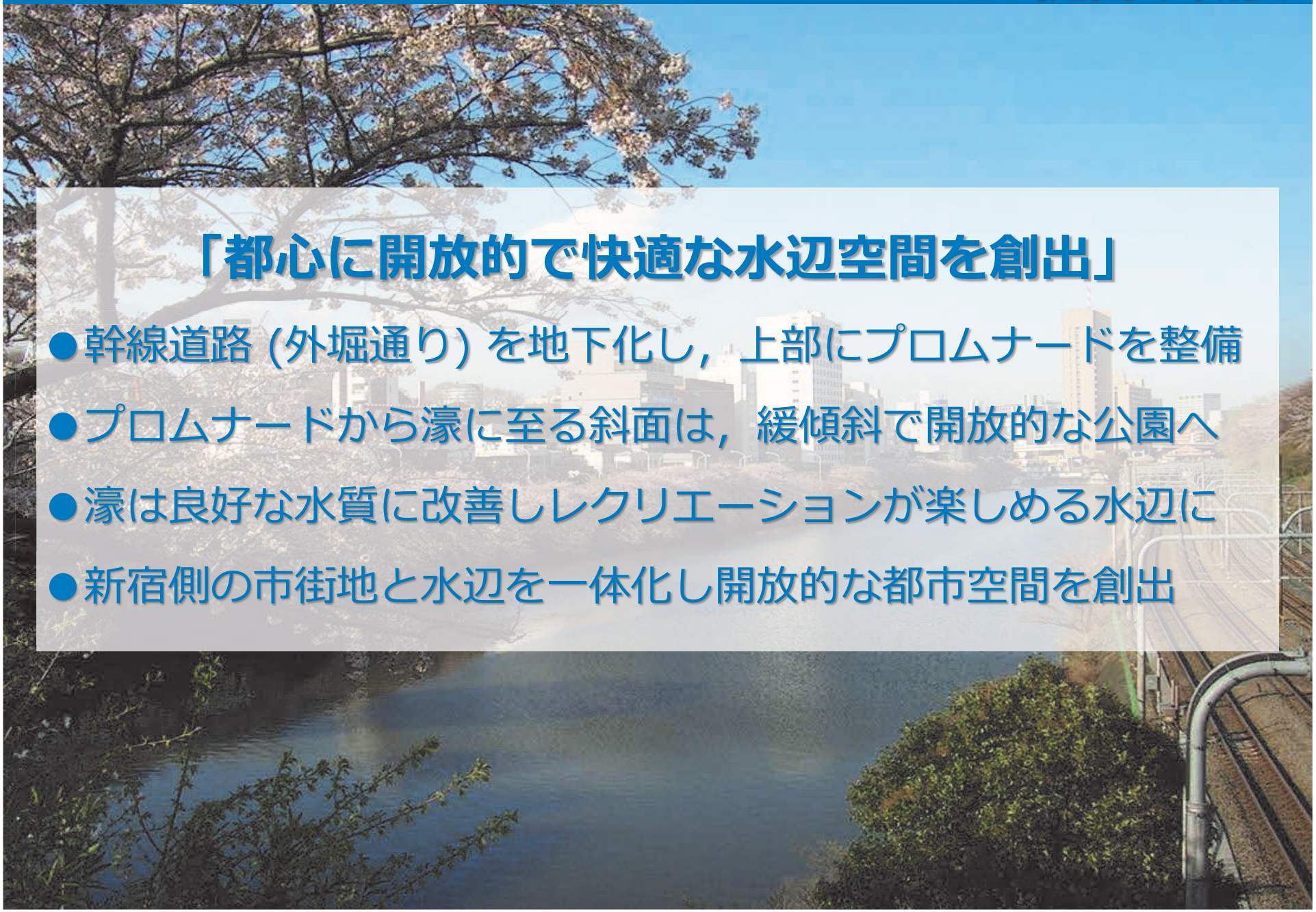
6. 本事業の意義および課題 …… 26

7. 提言書作成の経緯と今後の活動 …… 29

【外濠（市ヶ谷～飯田橋）地区再生プロジェクト】検討者名簿 …… 36

JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 委員名簿 …… 37

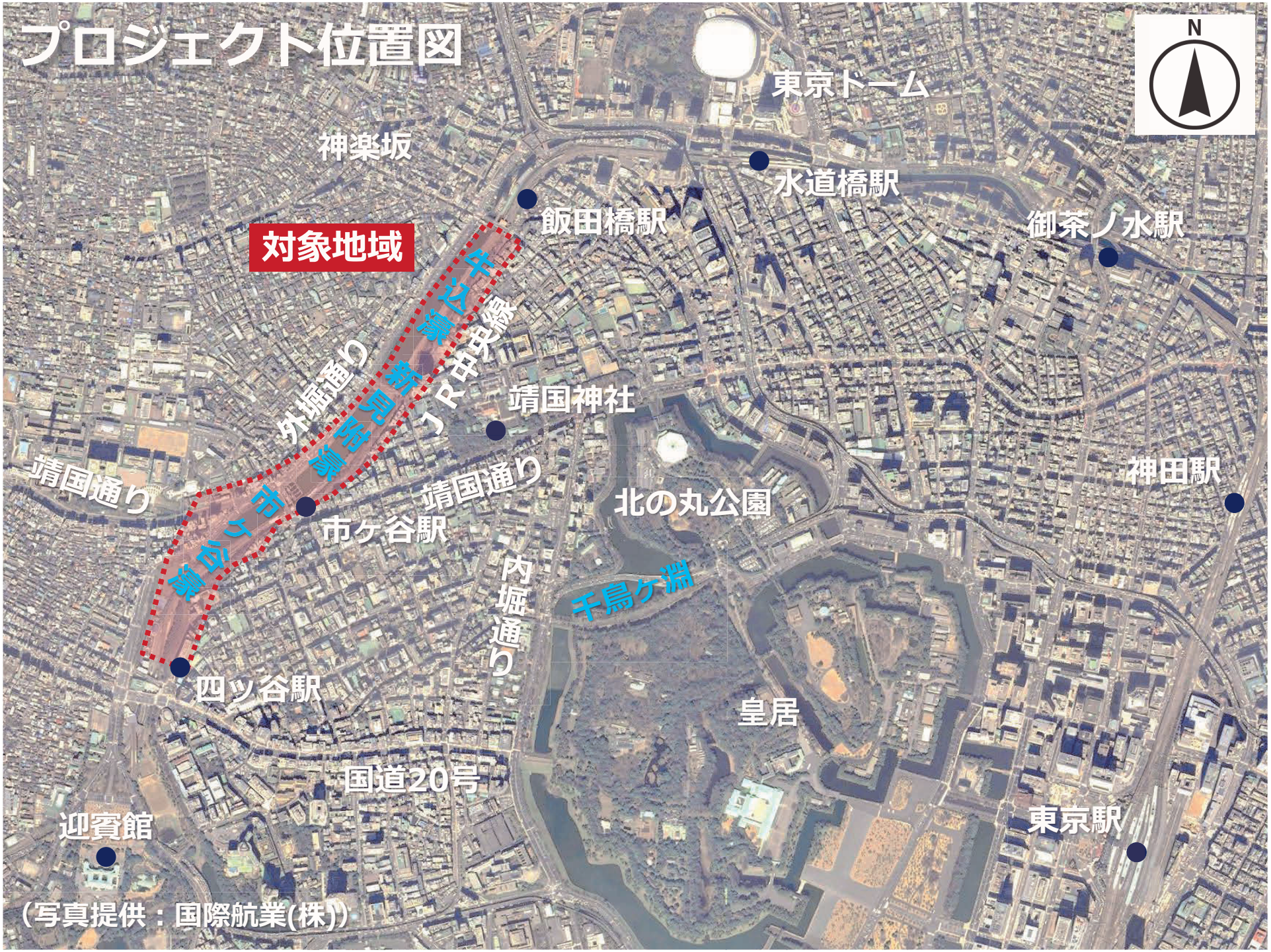
1. 提言の概要



「都心に開放的で快適な水辺空間を創出」

- 幹線道路（外堀通り）を地下化し，上部にプロムナードを整備
- プロムナードから濠に至る斜面は，緩傾斜で開放的な公園へ
- 濠は良好な水質に改善しレクリエーションが楽しめる水辺に
- 新宿側の市街地と水辺を一体化し開放的な都市空間を創出

プロジェクト位置図


N
東京ドーム
神楽坂
水道橋駅
飯田橋駅
御茶ノ水駅
対象地域
牛込濠
新見附濠
外堀通り
JR中央線
靖国神社
靖国通り
神田駅
靖国通り
市ヶ谷駅
北の丸公園
市ヶ谷濠
内堀通り
千鳥ヶ淵
四ツ谷駅
皇居
国道20号
東京駅
迎賓館
（写真提供：国際航業(株)）

2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(1) 現状の課題：地形特性

◆都心にある赤坂離宮から続く外濠の緑のネットワーク
◆水辺空間を備える幅50m，延長1.5kmに及ぶ緑豊かなオープンスペース
◆九段側に比べ新宿区側は潤いのある緑が貧弱



2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(2) 現状の課題：外堀通りの現況

①外堀通りの諸元

路線名	環状街路第2号線
道路規格	第4種第1級
設計速度	50km/h
車線数	4車線（総幅員：25m）
通過交通量	42,000台／日

②都市計画の進捗

◆都市計画決定：昭和21年3月26日告示
（戦復告第3号）

◆道路総幅員は40mで計画決定は完了
⇒事業認可されていない「未完成区間」

◆沿道第一列の建物は，計画に従って
セットバックが進む（進捗は50%弱）

セットバックが進む外堀通り



2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(3) 現状の課題：街と水辺の繋がりを遮断する外堀通り

◆外堀通り脇には外濠の水辺を主体とする緑豊かなオープンスペースが存在

◆丘陵部の閑静な住宅地と水辺空間との連続性確保

＝まちづくりにおいて重要な課題

◆現状：交通量の多い外堀通りでその連続性が遮断される

新見附濠脇の外堀通り

（牛込側の街区と緑豊かな水辺が道路で寸断）



外堀通りの一口坂交差点

（道路で一口坂からの人の流れも遮断）



2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(4) 現状の課題：人を寄せ付けない沿道景観や歩道空間

◆沿道景観にも配慮が行きわたらず，街並みも煩雑な印象を受け人々を惹きつけない

◆外堀通りの濠側歩道が狭い

◆水辺に至る斜面が急傾斜であり容易に水辺へ近付けない

外堀通りの沿道景観
（景観保全に配慮が足りない沿道）



狭い外堀通りの濠側の歩道
（急勾配斜面があり水辺に近付けない）



2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(5) 現状の課題：外濠の劣悪な水質

◆外濠には出水時に合流式下水道から下水が流入（下水流入口が18箇所）

◆夏場には富栄養化により植物プランクトンが増殖
⇒関東地方の他の閉鎖性水域と比較しても水質は劣悪
（汚濁に強いコイ，フナが生息することも困難な水準）



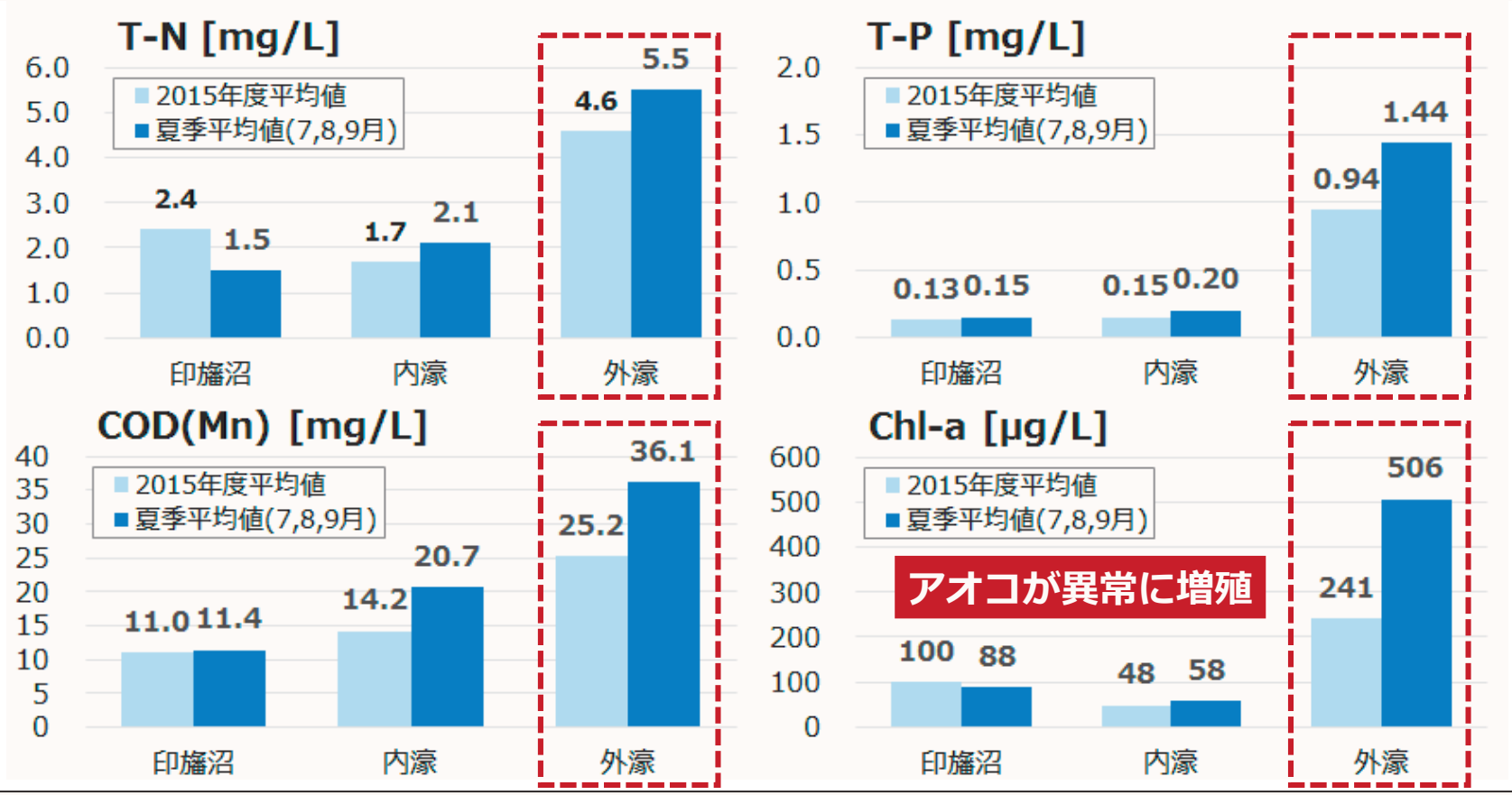
(提供：中央大学山田研究室)



(提供：中央大学山田研究室)

2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

印旛沼 (上水道取水口地点, 2015年) / 内濠 (千鳥ヶ淵, 2015年) / 外濠 (市ヶ谷濠, 2015年)



T-N（全窒素），T-P（全リン）	：富栄養化した湖沼等で値が大きくなる
COD（化学的酸素要求量）	：有機物などによる水質汚濁の程度を示す
Chl-a（クロロフィルa）	：水中の植物性プランクトンの量を示す（富栄養化の進行の指標）

(提供：中央大学山田研究室)

⇒水質が問題となっている他の湖沼よりもさらに水質が悪い

2. 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地域の現状と課題

(6) 現状の課題：外濠に関連する法規制など

①文化財指定地区

◆昭和31年，国史跡江戸城外堀跡として指定
◆千代田区，港区，新宿区：
　平成20年3月「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」策定
◆開発計画推進では文化庁，関連学識者との合意形成が重要

②水面管理の主体が曖昧

◆外堀道路脇斜面：東京都管理
◆水面は複数の関連行政の狭間
　・所有管理：国、東京都
　・立ち入り等の軽微な許認可：千代田区
◆管理主体が不明確


JRが並走する牛込濠

(1) 連邦道路B1の地下化（ドイツ；デュッセルドルフ）

都市を分断していたB1の混雑状況(1989年)



写真左側：ライン川河岸
写真右側：デュッセルドルフ旧市街

現在のライン川河岸プロムナード



トンネル坑口



<u>B1の地下化により河岸と旧市街が一体化され，大勢の人々で賑わう</u>

(出典：国土交通省「首都高速の再生に関する有識者会議」提言書)

(2) 清渓川復元（韓国；ソウル）



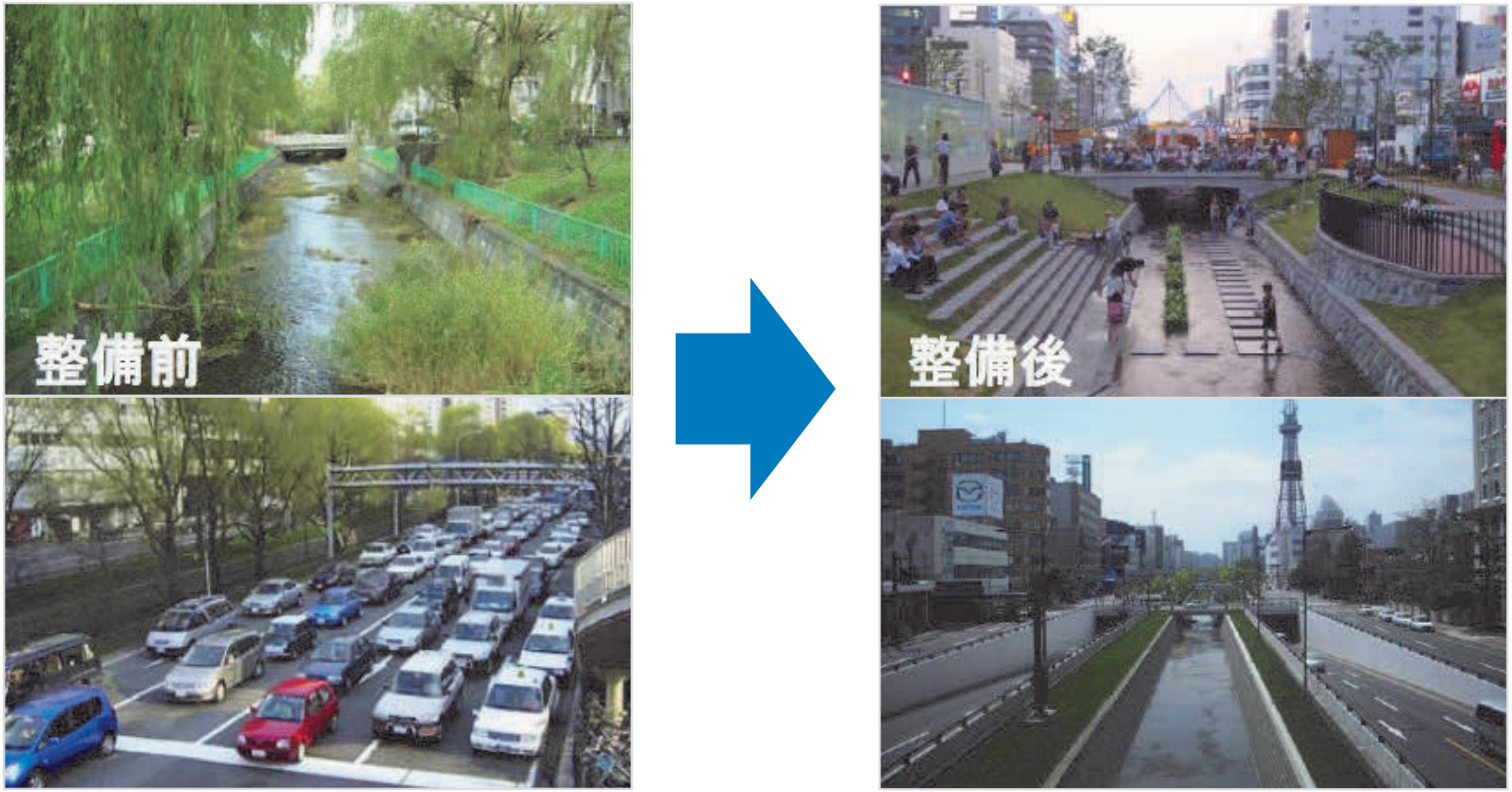
清渓川の暗渠の上部を高架道路が通る



高架道路を撤去、快適な歩行空間と賑わいの親水空間を実現／周辺の不動産価値向上にも寄与

出典（写真A）：WWF（https://wwf.panda.org/wwf_news/?204454/Seoul-Cheonggyecheon-river）
（写真B）：一般財団法人自治体国際化協会「清渓川復元事業～50年ぶりに復元された清渓川～」

(3) 創成川整備（札幌市）



「創成川アンダーパス事業」により幹線道路（片側4車線）を地下化し，上部を緑化

(出典：国土交通省「首都高速の再生に関する有識者会議」提言書)

(1) 整備内容と手順

整備手順

外堀通り地下化

↓

外濠地下に現貯水容量を確保できる貯留施設を整備

↓

貯留施設上部に人工水面を整備

↓

濠側の歩道脇法面を緩傾斜化

↓

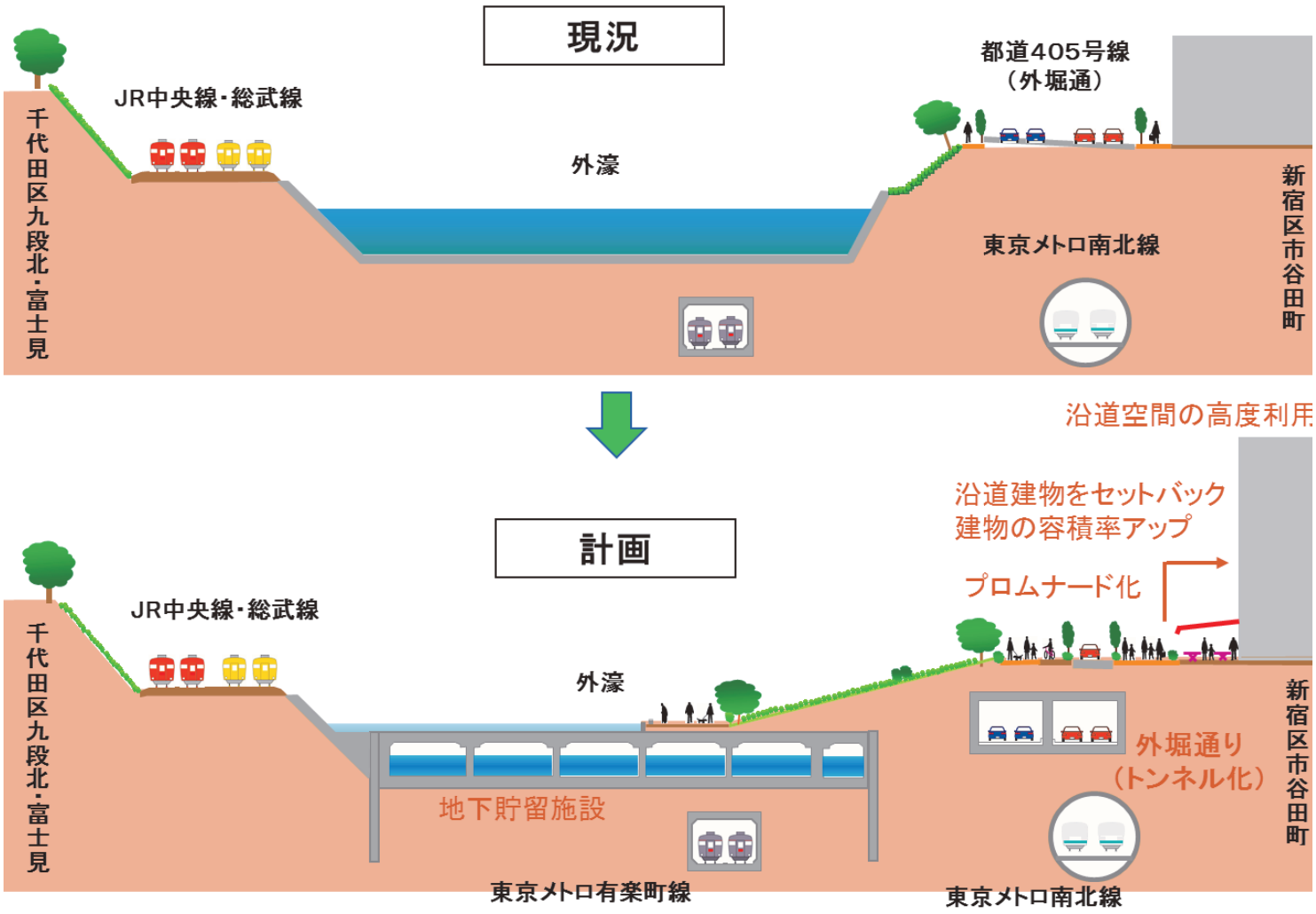
斜面と人工水面を一体化

↓

トンネル上部をプロムナード化

↓

沿道建物をセットバック

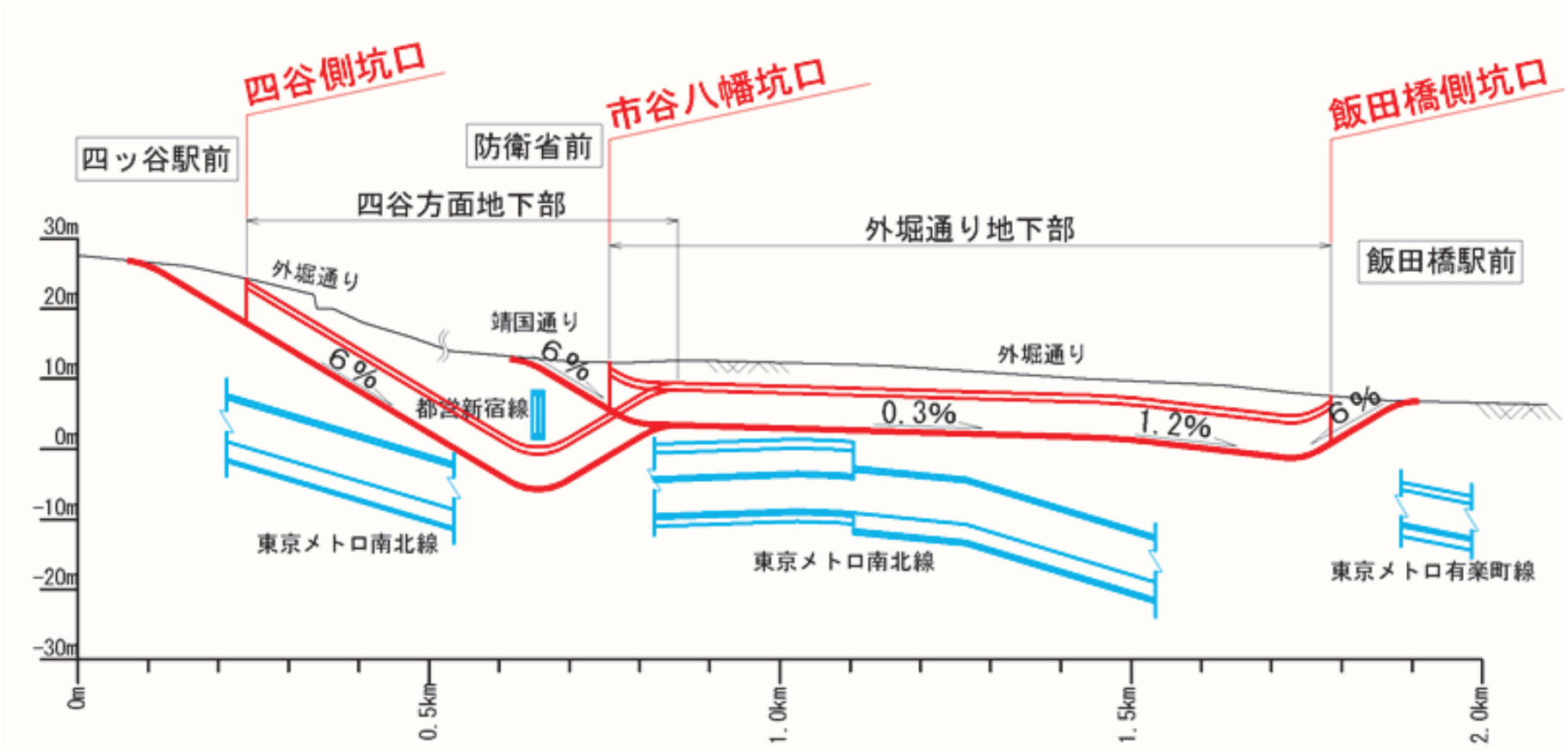


(2) 外堀通りの地下化

①概略計画平面図

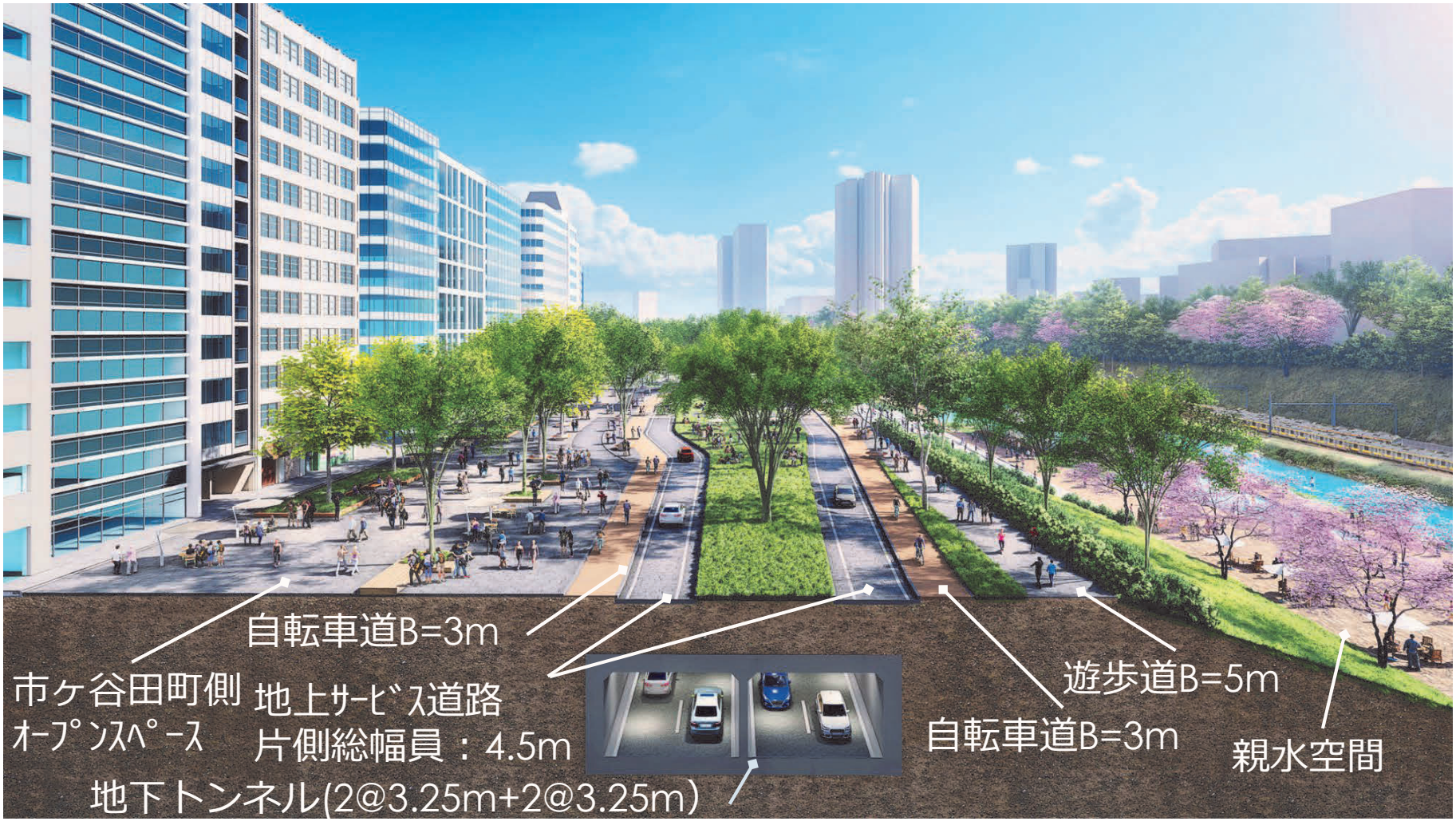


②概略計画縦断図


四谷側坑口
市谷八幡坑口
飯田橋側坑口
四ッ谷駅前
防衛省前
飯田橋駅前
四谷方面地下部
外堀通り地下部
30m
20m
10m
0m
-10m
-20m
-30m
外堀通り
靖国通り
6%
6%
都営新宿線
外堀通り
0.3%
1.2%
6%
東京メトロ南北線
東京メトロ南北線
東京メトロ有楽町線
0m
0.5km
1.0km
1.5km
2.0km

4. プロジェクトの概要

③概略計画断面図



外堀通り　総幅員（都市計画道路＋セットバック）40～50m

(3) 水理計画

①地下貯留槽で人工の親水空間を構築

◆外濠に神田川治水計画において洪水調節機能が必要
◆治水のための空間と親水空間を分離
◆治水機能が確保できる地下貯留槽を構築
◆地下貯留槽上部に水深の浅い親水広場を構築

②地下貯留槽の計画貯水必要容量

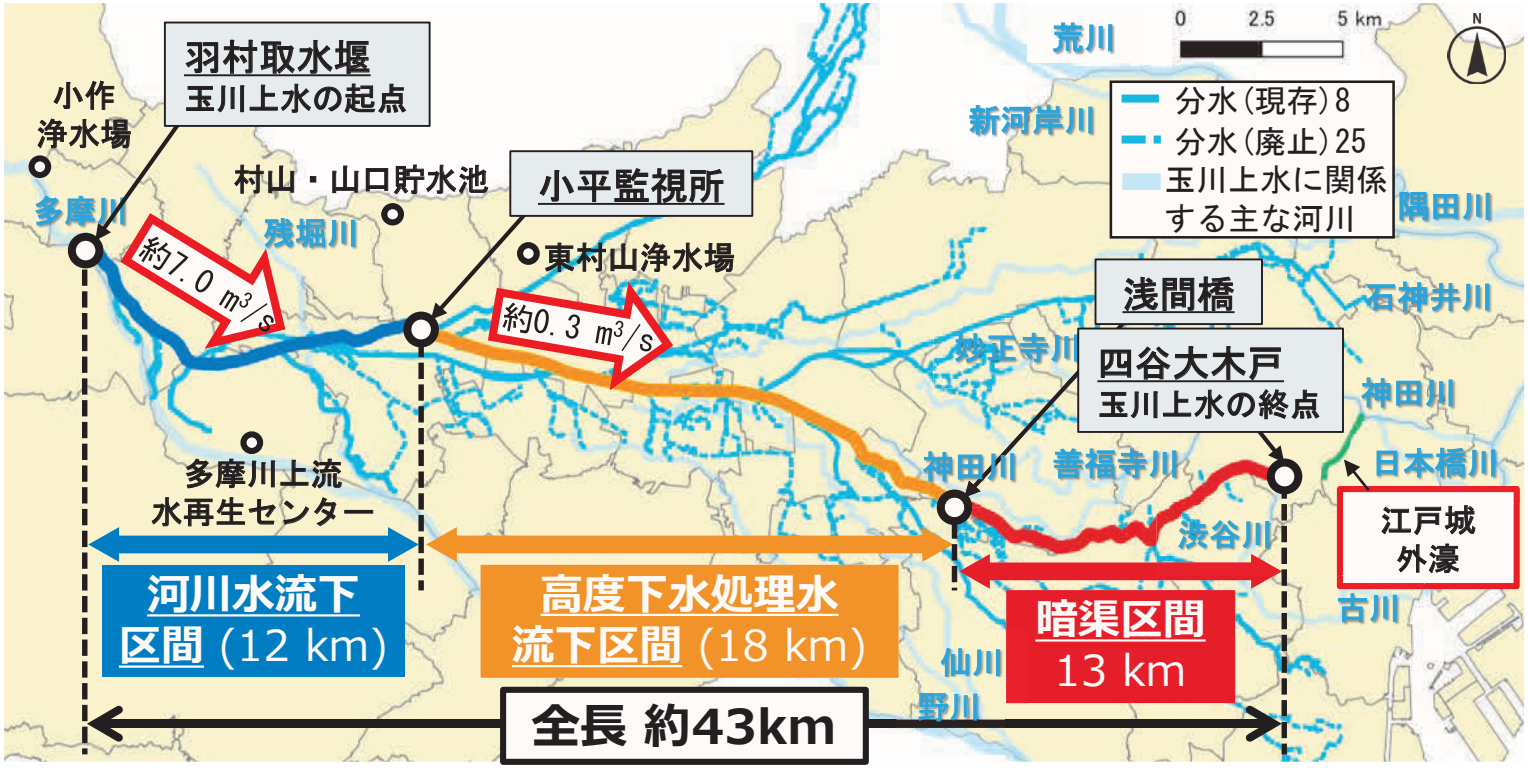
◆貯水必要容量：
・計画雨量50mm/hr時の流出ハイドログラフを想定
・外濠からの計画放流量は当時の計画から6m^3/sと仮定
⇒貯水必要容量：約180,000m^3
◆貯水可能容量：
・3つの濠の平面、縦断形状、地下鉄との離隔を考慮
・上記から底板高を設定し貯留可能な容量を概略算定
⇒貯水可能容量：約220,000m^3
◆必要容量の1.2倍を確保可能（220,000/180,000＝1.2）



(4) 水質浄化

◆東京都による水質改善対策
- 合流式下水道の老朽化対策と外濠の水質改善（東京都下水道局実施中）
- 底泥の浚渫（東京都建設局：平成29年10月－令和元年10月）

◆市民団体が進める玉川上水の導水による水質改善構想
- かつて外濠を経由して日本橋川に通水していた玉川上水の再生



(提供：中央大学山田研究室)

計画イメージ：新見附濠（市ヶ谷駅側から飯田橋駅方面を臨む）



◆浅瀬で子供たちが水遊びが出来る空間創出を主眼とする整備
◆水辺を眺め休憩できるカフェを併設

4. プロジェクトの概要

計画イメージ：牛込濠（飯田橋駅側から市ヶ谷駅方面を臨む）



◆水辺空間でカヌーなどのマリンレジャーを楽しむゾーンとして整備
◆本ゾーンの緑に囲まれた水辺の賑わいは飯田橋駅、神楽坂へと繋がる

4. プロジェクトの概要

計画イメージ：新見附橋付近（市ヶ谷駅側から飯田橋駅方面を臨む）



◆一口坂から外堀通りに至る新見附橋をS字の橋梁で市ヶ谷田町交差点へ移動
◆牛込中央通りとの市ヶ谷田町交差点はラウンドアバウトの交差点に改良

全体完成予想図（市ヶ谷駅側から飯田橋駅方面を臨む）



5. 事業費および事業効果

(1) 概算事業費

工事項目	概算工費
外濠通り地下トンネル	約650億円
外濠地下貯留槽	約300億円
トンネル上部道路及びプロムナード整備	約30億円
水辺空間整備	約20億円
主要部分の概算工事費合計	**約1,000億円**

＜事業費算出の仮定条件＞

◆道路地下構造物：

オープンカットによる施工，ただし都営新宿線直下は推進工法を想定

◆濠の地下貯留槽構造物：

JR施設との近接施工を考慮し地中連壁による施工

◆総工期：約7年

(2) プロジェクトの効果：経済効果

事業効果		効果の予測金額
周辺環境の高質化 建物の不動産価値向上	①現床面積価値の上昇	200億円
	②増加した床面積価値	300億円
③道路交通改善		250億円
④防災空間創出		35億円
⑤環境改善による便益		150億円

<効果測定の仮定条件>

① 対象とする外堀通り沿道の現況建物の床面積価値の上昇

② 上記沿道建物のセットバックによる容積率緩和にて増加した床面積価値

③ 時間短縮1.9分/台を予測，現交通量（42,000台/日）にて便益算出

④ プロムナード：約4万m^2，外濠総面積約10万m^2，計14万m^2の約20%が防災空間と仮定　⇒周辺の地価を約120万円/m^2として代替法にて算出（14万m^2×0.2×120万円/m^2＝約35億円）

⑤ 仮想的市場評価法（CVM）で算出　⇒空間整備効果：約80億円，水質改善効果：約70億円

(出典：インフラストラクチャー研究所『RIIM REPORT 2010.3』, 8-2)

(3) プロジェクトの効果：防災機能向上効果

①対象地区周辺の避難スペース拡大

◆避難場所の避難民の密集緩和

⇒都内で最も収容密度が高い後楽園一帯避難場所の密度を外濠で緩和

◆対象地区住民の一時集合場所や避難場所として活用

◆本地区で収容可能な避難者数＝約14,000人（予測）

⇒1人当たりの必要面積を2.0m^2（避難場所での一般的数値）と仮定

②安全な避難確保や火災損傷の軽減化(延焼遮断効果)

◆外濠沿道建物の高層化と水辺空間で道路や市街地からの延焼を遮断

③帰宅困難者等に対する支援機能

◆大震災時には鉄道や幹線道路には多くの帰宅者、帰宅困難者が発生

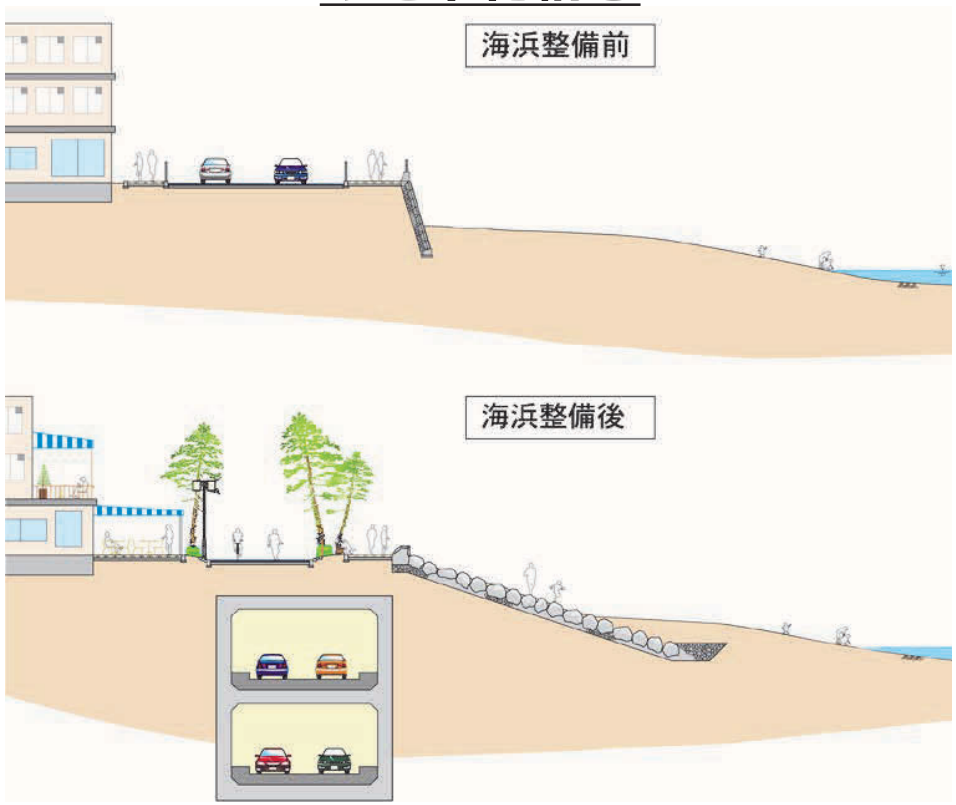
◆対象地区は都心の主要鉄道路線近辺で唯一大きな防災空間を確保できる

⇒プロムナードや水辺公園内に救護・支援施設を併設し対処可能

(1) 本事業の実現の意義

◆道路・水辺の再構築で都市の魅力度向上につなげた先駆的事例として活用
◆水辺に市街地が近接する地方都市や観光地に適用し地域活性化を図る

鎌倉市海岸道路（国道134号）の地下化構想



国道134号が市街地と水辺空間を分断



頻発する渋滞が分断を助長



出典：「地域の再生・ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝに関する検討-鎌倉ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ-」・ｲﾝﾌﾗｽﾄﾗｸﾁｬｰ研究会「研究発表資料（1999年8月）」

(2) 事業資金の調達について

①公共と民間事業者による事業推進の必要性

◆国等の財政状況を踏まえると受益者負担を前提とした民間資金等の活用も視野に入れなければ事業化が困難

◆本事業は完全な民間事業としては投資価値が十分とは言えず，公共事業費の投入も必要

◆資金調達と事業手法を組み合わせた適切な民間参加型事業スキームの構築が課題

②公民連携を前提とした事業手法

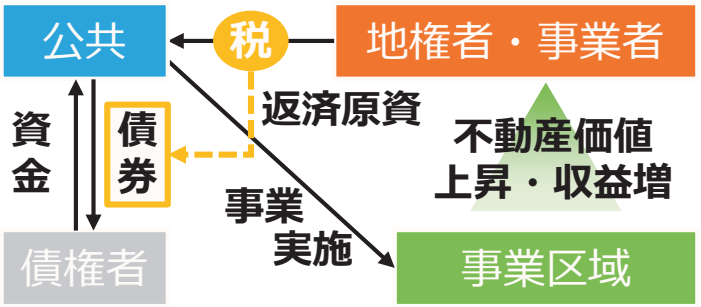
◆次頁に示す資金調達と事業手法が有力な候補案として考えられる

◆これらを組み合わせる適切な民間参加型事業スキームの構築が重要

6. 本事業の意義および課題

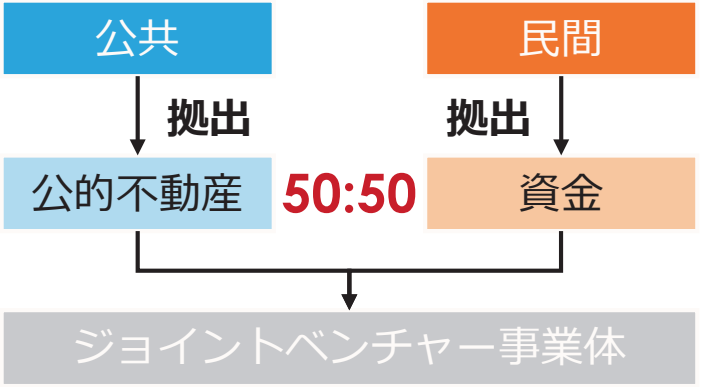
例① TIF (Tax Increment Financing)

- 開発後の固定資産税等の増収分を返済原資とした債券によって資金調達を行う手法
- レベニュー債の一種（日本では制度化されていない）



例② LABV (Local Asset Backed Vehicle)

- 公共と民間が資産を対等に拠出し，それを資本とした事業体を通じて事業を実施する手法
- 公共は公的不動産，民間は資金をそれぞれ拠出することが一般的



例③ アベイラビリティ・ペイメント

- 料金収入を伴わないインフラのPFI事業方式
- 返済は公的財源によるが，事業のライフサイクルにわたる効率化により費用削減が期待できる

7. 提言書作成の経緯と今後の活動

(1) 第1フェーズ【2004年-2011年】

◆中村英夫先生の指導の下、インフラストラクチャー研究会による欧州視察（1997年）を契機に同研究会有志により「都市のリノベーション」をテーマに研究開始

◆2004年，「四ツ谷駅から飯田橋駅に至る外堀通り，外濠で構成される水辺空間の再生」を研究対象として具体的研究を開始

◆幹線道路の地下化，外濠の水理検討，水質検討、水辺空間の利活用のチーム分けを行い、（一社）建設コンサルタンツ協会（JCCA）の支援を得て提案をパンフレットに

◆同時期に宮本和明先生の指導を受け，JCCAインフラストラクチャー研究所にてプロジェクトの効果計測を実施（インフラストラクチャー研究所『RIIM REPORT 2010.3』参照）



提案のパンフレット

7. 提言書作成の経緯と今後の活動

■第1フェーズ検討メンバー■

（敬称略）

役割	氏名	所属（検討当時）
リーダー	吉川正嗣	国際航業(株)
メンバー	上野俊司, 工藤誠, 伊豫屋紀子	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	村田和夫, 西村達也, 見附敬三	(株)建設技術研究所
	大友正晴, 阿部義典, 髙木博康, 市川武志	国際航業(株)
	飯田善一郎, 山崎祐一	日本工営(株)
	仁賀木康之	復建エンジニヤリング(株)
有識者	宮本和明	武蔵工業大学（現東京都市大学）環境学部 教授
	山田正	中央大学理工学部 教授
	大平一典	中央大学理工学部　特任教授
事務局	酒井芳一	インフラストラクチャー研究会
	丹羽崇哲, 市川吉洋	JCCAインフラストラクチャー研究所
CG作成協力		(株)キャドセンター
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	中村英夫	東京都市大学総長 インフラストラクチャー研究会 会長

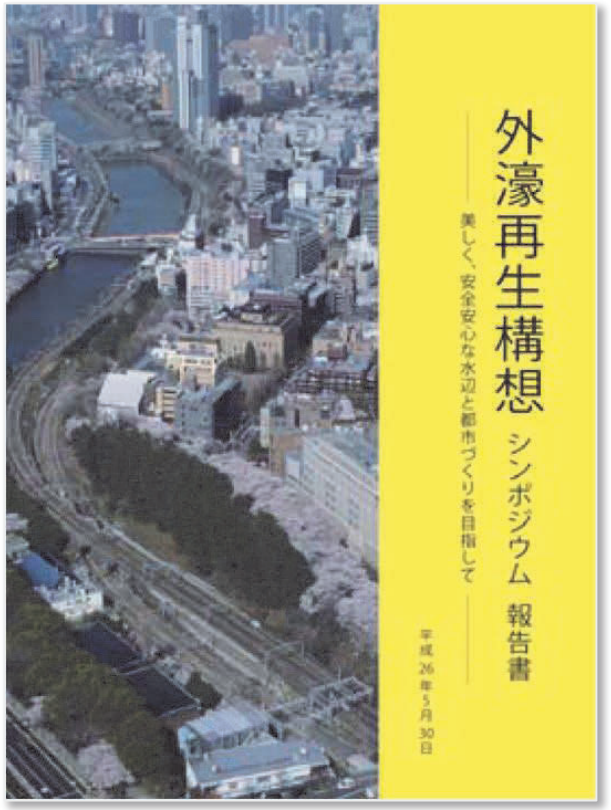
7. 提言書作成の経緯と今後の活動

(2) 第2フェーズ【2012年-2021年】

◆2012年，第1フェーズで検討した提案を広く関係者に広報し，プロジェクト実現に向けた機運を醸成するため，(一社)日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）とJCCAの協力の下で「都市のリノベーション委員会」を設立、また、(一社）関東地域づくり協会の支援を得る

◆中村先生を中心に関連機関のトップ（都知事，千代田・新宿区長，国会議員）へのプレゼンテーションを実施

◆法政大学および東京理科大学が従前より行っていた「外濠市民塾」と連携し，これに東京都市大学，中央大学を加えた研究体制を構築



シンポジウムのパンフレット

◆2014年，「外濠再生構想シンポジウム」を開催し，その重要性を関係機関に報告

◆2015年，JAPICに設置された「国土・未来プロジェクト研究会」に重点プロジェクトとして引き継がれ研究進行中

7. 提言書作成の経緯と今後の活動

■第2フェーズ検討メンバー■

（敬称略）

役割	氏名	所属（2021年5月時点）
リーダー	吉川正嗣	(株)建設技術研究所
ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰ	川口英俊	東京都市大学都市生活学部 教授
メンバー	石村佳之, 髙木博康, 今川奈保	(株)ｵﾘｴﾝﾀﾙｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ
	見附敬三	(株)建設技術研究所
	阿部義典, 大友正晴, 松谷泰生	国際航業(株)
	石﨑晶子, 酒本翔太, 伊東博史, 尊田美和子	ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(株)
	仁賀木康之, 石坂久志	復建エンジニヤリング(株)
	平田憲光, 竹澤正太郎	前田建設工業(株)
事務局	酒井芳一	インフラストラクチャー研究会
	今井稔, 梶原辰登, 近藤文人, 二村達, 横田太作, 中村裕一, 田原和久, 大串祐介, 張天童, 森山真稔, 伏見健吾	JCCAインフラストラクチャー研究所
	成田高一, 三浦雄一, 柏倉志乃, 宮本徹, 立澤嘉之, 箱田泰史, 金井豊, 中川伸司	JAPIC
有識者	山田正	中央大学研究開発機構 教授
	大平一典	中央大学理工学部　兼任講師
	宮本和明（当初：東京都市大学都市生活学部 教授）	ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(株) 技術顧問
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	藤本貴也（当初：JCCA 副会長）	ﾊﾟｼﾌｨｯｸｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ(株) 特別顧問
	酒井利夫	JCCA 副会長
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	中村英夫	東京都市大学名誉総長 JAPIC副会長

7. 提言書作成の経緯と今後の活動

(3) 今後の広報活動

◆東京都2019年12月，「『未来の東京』戦略ビジョン」策定
⇒うちビジョン16 (下記) は本プロジェクトを継続的に都へプレゼンした成果
◆大学，民間企業を巻き込んで本提言に関連したシンポジウム等を開催予定
◆地区の周辺住民だけでなく都民，マスコミ等の関心を高め機運を醸成

＜参考資料＞ 「『未来の東京』戦略ビジョン」抜粋

ビジョン16：水と緑「水と緑を一層豊かにし，ゆとりと潤いのある東京」

◆ 玉川上水や，河川等の清流が復活し，浄化や自然環境の改善が進んだ外濠では蛍が舞い，江戸の昔ながらに再生された美しい水と緑が東京を代表するシーンとなっている
◆ 日本橋付近では，首都高速道路の地下化により水辺に顔を向けた街並みとなり，豊かな水と緑を楽しむ人々が集い，活発な舟運と相まって，賑わいと憩いの場となっている

(他の項目省略)

戦略13「水と緑溢れる東京戦略」における2030年に向けた政策目標
1目標/8目標：「河川空間を活用した賑わいを創出」
（4地区が挙げられているが外濠地区は候補になっていない）
1目標/8目標：「外濠の水質を改善」

【外濠（市ヶ谷～飯田橋）地区再生プロジェクト】検討者名簿

※敬称略

チームリーダー

吉川　正嗣　（(株) 建設技術研究所　顧問）

メンバー　（50音順）

阿部　義典　（国際航業(株)　インフラマネジメント事業部　道路計画担当部長）

石﨑　晶子　（パシフィックコンサルタンツ(株)　経営戦略室　チーフプロジェクトマネジャー）

川口　英俊　（東京都市大学　都市生活学部　教授）

髙木　博康　（(株) オリエンタルコンサルタンツ　関東支社　道路部　副部長）

竹澤 正太郎　（前田建設工業（株）　土木事業本部　副部長）

仁賀木 康之　（復建エンジニヤリング（株）　事業推進部　部長）

見附　敬三　（(株) 建設技術研究所　管理本部　副本部長）

森山　真稔　（(一社) 建設コンサルタンツ協会　インフラストラクチャー研究所　研究員）

（注）
ここでは提言書作成に参加頂いた企業・団体の代表者の方のみ記載しています。参加企業の他のメンバー、初期に参加頂いたメンバー、ご指導、ご協力頂いた有識者の方々、（一社）建設コンサルタンツ協会、（一社）日本プロジェクト産業協議会の関係者の方々は本文 P.30、P.32 を参照ください。

～ JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 委員名簿（敬称略）～

	氏　名	団体名	役　職
最高顧問	中村　英夫	(一社)日本プロジェクト産業協議会	副会長／東京都市大学　名誉総長
委員長	藤本　貴也	パシフィックコンサルタンツ(株)	特別顧問
委員	阿部　義典	国際航業(株)	インフラマネジメント事業部　道路計画担当部長
	雨宮　克也	三井不動産(株)	開発企画部　環境創造グループグループ長
	荒井　　清	東亜建設工業(株)	土木事業本部　プロジェクト部長
	荒木　千博	(株)建設技術研究所	東京本社　河川部長
	有田　　淳	前田建設工業(株)	土木事業本部　営業第1部副部長
	安斉　孝仁	(一社)日本プロジェクト産業協議会	顧問
	安藤　聡穂	(株)IHI	社会基盤・海洋事業領域グローバルビジネス推進部　部長
	飯尾　昌和	(株)日本港湾コンサルタント	計画本部　専任部長
	石坂　久志	(株)復建エンジニヤリング	事業本部　副本部長
	石﨑　晶子	パシフィックコンサルタンツ(株)	経営戦略室　チーフプロジェクトマネージャー
	石田　有三	大成建設(株)	土木営業本部　開発営業部　営業担当部長
	石村　佳之	(株)オリエンタルコンサルタンツ	関東支社　道路部長
	一色　眞人	西松建設(株)	代表取締役　執行役員　副社長
	乾　　靖	(株)竹中工務店	まちづくり戦略室　専門役
	今井　敬一	(株)建設技術研究所	国土文化研究所　次長
	今井　　稔	(一社)建設コンサルタンツ協会	インフラストラクチャー研究所　研究部長
	岩野　政浩	大成建設(株)	理事　土木本部　土木企画部長
	上西　泰輔	(株)大林組	東京本店　土木事業部　営業部長
	太田　昌彦	日本製鉄(株)	プロジェクト開発部長
	大野　昌幸	清水建設(株)	営業総本部　土木営業本部　営業部　部長
	大村　哲夫	(株)日本港湾コンサルタント	取締役会長
	岡本　俊彦	大成建設(株)	土木本部　土木企画部　戦略計画室　部長代理
	岡山　　誠	鹿島建設(株)	土木管理本部　土木工務部　ダムグループ担当部長
	越智　　修	五洋建設(株)	専務執行役員　土木部門担当
	越智　繁雄	大成建設(株)	執行役員
	小野　哲男	(株)熊谷組	執行役員　土木事業本部　副本部長
	加藤　孝明	東京大学	生産研究所　教授／社会科学研究所　特任教授
	門脇　直哉	日鉄物産(株)	プロジェクト開発部長
	神尾　哲也	戸田建設(株)	常務執行役員　土木営業統轄部長
	河合　康之	(株)三菱地所設計	エグゼクティブアドバイザー
	川口　英俊	東京都市大学	都市生活学部　教授
	川嶋　　憲	(株)日本港湾コンサルタント	執行役員
	菅藤　　学	(株)ドーコン	東日本事業本部　東京支店　事業部長
	菊地　史春	日鉄興和不動産(株)	企業不動産開発本部　九州支店長
	清原　　亮	(株)安藤・間	営業本部　営業第一部　営業グループ課長
	栗栖　　寛	(株)淺沼組	土木事業本部　技術設計第２グループ　グループリーダー
	黒川 純一良	(公社)日本河川協会	専務理事
	桑原　茂雄	(株)淺沼組	執行役員　戦略事業推進部　部長
	小坂　彰洋	東京地下鉄(株)	常務取締役
	五味　宗雄	(株)安藤・間	取締役副社長
	今野　水己	(株)三菱総合研究所	西日本営業本部　特命リーダー
	斉藤　　親	(一社)日本プロジェクト産業協議会	顧問
	酒井　哲夫	(株)ドーコン	東日本事業本部　次長
	佐々木 雅幸	東急建設(株)	常務執行役員　土木事業本部　副本部長
	佐野　　忍	鹿島建設(株)	土木管理本部　プロジェクト推進部　プロジェクト推進部長
	塩﨑　正孝	(株)IHI	顧問
	清水　英範	(公社)日本測量協会	会長
	清水　　雄	(株)オオバ	常務取締役　執行役員　営業本部長
	下長　右二	パシフィックコンサルタンツ(株)	執行役員　社会イノベーション事業本部長
	白木原 隆雄	(一社)計画・交通研究会	理事・事務局長

	氏　名	団体名	役　職
	白水　靖郎	中央復建コンサルタンツ(株)	常務取締役　経営企画本部長
	杉原　克郎	(株)エスシー・マシーナリ	代表取締役社長
	関　　克己	(公財)河川財団	理事長
	髙木　博康	(株)オリエンタルコンサルタンツ	関東支社　道路部　副部長
	高橋　　明	(株)日本政策投資銀行	地域調査部長
	髙橋 健太郎	(株)熊谷組	土木事業本部　営業部　部長
	竹澤 正太郎	前田建設工業(株)	土木事業本部　副部長
	田代　裕一	パシフィックコンサルタンツ(株)	社会イノベーション事業本部　交通政策部　都市マネジメント室
	龍田　昌毅	日鉄物産(株)	プロジェクト開発部　担当部長
	谷山　喜彦	日鉄興和不動産(株)	開発企画本部　担当部長
	角田　光男	(一社)共同通信社	社友
	土井　一生	(株)みずほ銀行	社会・産業基盤インダストリーグループ長付参事役
	飛田　茂美	(一社)不動産協会	前 事務局長代理
	長澤 光太郎	(株)三菱総合研究所	専務執行役員　シンクタンク部門長
	永重　雅守	前田建設工業(株)	常務執行役員　土木事業本部　副本部長
	中嶋 さやか	五洋建設(株)	ICT 推進室　BIM/CIM グループ　担当課長
	中矢　昌希	中央復建コンサルタンツ(株)	総合技術本部　社会インフラマネジメントセンター　都市開発プロジェクト　チーフマネージャー
	奈良　照一	(株)ドーコン	交通事業本部　交通部長
	楯館　　学	日本シビックコンサルタント(株)	地下施設技術部　部長代理
	楯原　圭紘	パシフィックコンサルタンツ(株)	プロジェクト統括部　ビジネスインキュベーション室
	南光　　繁	日本製鉄(株)	プロジェクト開発部　プロジェクト開発室　上席主幹
	仁賀木 康之	復建エンジニアリング(株)	事業推進部　部長
	服部　唯之	(株)ドーコン	東京支店　支店長
	林　　敦	(株)みずほ銀行	執行理事　社会・産業基盤第二部長
	林　　良嗣	中部大学	卓越教授
委　員	深澤　淳志	(一財)日本建設情報総合センター	理事長
	藤井　　健	首都高速道路(株)	代表取締役　専務執行役員
	堀江　弘和	(公財)名古屋まちづくり公社	名古屋都市センター事業部長
	正岡　和繁	日本シビックコンサルタント(株)	地下施設技術部　グループ長
	町村　俊彰	前田建設工業(株)	土木事業本部　営業第1部長
	松尾　直規	中部大学	名誉教授
	松崎　成伸	戸田建設(株)	本社土木営業第一部　課長
	松田　寛志	日本工営(株)	常務執行役員
	松谷　春敏	(株)IHI	顧問
	松友　　登	西松建設(株)	執行役員　土木事業本部　副本部長
	松本　　伸	(株)大林組	常務執行役員　土木本部　生産技術本部長
	丸岡　裕人	日鉄防食(株)	取締役企画管理部長　安全環境・品質統括部長
	丸山　隆英	東亜建設工業(株)	執行役員　常務
	水口 倫太郎	あおみ建設(株)	経営企画室長
	水谷　　誠	(一社)日本建設業連合会	常務執行役
	見附　敬三	(株)建設技術研究所	管理本部　副本部長
	三輪　恭之	森ビル都市企画(株)	事業企画部　部長補佐
	村尾　公一	東京都市大学	特任教授
	村田　浩隆	五洋建設(株)	横浜営業支店　支店長
	森山　真稔	(一社)建設コンサルタンツ協会	インフラストラクチャー研究所　研究員
	山﨑　隆司	(株)JR東日本クロスステーション	常勤監査役
	山﨑　智之	(株)日本政策投資銀行	都市開発部　次長
	吉川　正嗣	(株)建設技術研究所	顧問
	吉﨑　　収	(株)大林組	執行役員　土木本部　副本部長
	利穂　吉彦	鹿島建設(株)	常務執行役員　技術研究所長
	渡邊　恵一	東亜建設工業(株)	土木事業本部　プロジェクト部　担当部長

	氏　名	団体名	役　職
アドバイザー	浦田　秀樹	日本製鉄(株)	プロジェクト開発部　プロジェクト開発室長
	江守　昌弘	(株)建設技術研究所	常務執行役員　東京本社　副本社長
	金山　洋一	富山大学	都市デザイン学部都市・交通デザイン学科　教授
	木村　敬一	日鉄物産(株)	プロジェクト開発部　担当部長
	栗田　　悟	(一社)北海道建設業協会	副会長
	酒井　芳一	(一社)建設コンサルタンツ協会	インフラストラクチャー研究会　事務局長
	長南　政宏	(株)建設技術研究所	東京本社都市部　PFI・PPP室　室長
	長谷川　専	(株)三菱総合研究所	営業本部　インダストリーマネージャー（スマートシティ担当）
	林　　栄明	国際航業(株)	公共コンサルタント事業部　事業管理部　部長
	吉川　大三	(株)安藤・間	営業本部　顧問
事務局	丸川　裕之	(一社)日本プロジェクト産業協議会	専務理事・事務局長
	三浦　潔司	(一社)日本プロジェクト産業協議会	常務理事・事業企画部長
	箱田　泰史	(一社)日本プロジェクト産業協議会	元 事業企画部　部長(現 鹿島建設(株))
	齋藤　　彰	(一社)日本プロジェクト産業協議会	事業企画部　部長
	久保田 勝朗	(一社)日本プロジェクト産業協議会	事業企画部　部長
	中川　雄一	(一社)日本プロジェクト産業協議会	事業企画部　部長

国土造りプロジェクト構想３
～安全・快適で豊かな国土造りのために～

【 外濠（市ヶ谷～飯田橋）地区再生プロジェクト 】
～都心に開放的で快適な水辺空間を創出～

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

発　　行　　2022 年 3 月 9 日
発 行 所　　一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会
〒 103-0025
東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 6F
編集・印刷　　株式会社 大應

©Japan Project-Industry Council 2022, Printed in Japan


JAPIC
Japan Project-Industry Council